

発行—2021年3月31日

<https://gdtk.lib.gunma-u.ac.jp>

編集—群馬県大学図書館協議会「会報」編集委員会 前橋市荒牧町4-2(群馬大学総合情報メディアセンター内) TEL.027-220-7180



PHOTO SPOT 桐生大学図書館

当館は、1階が開架書架のある閲覧エリア、2階がアクティブラーニングスペース(以下、ALS)のある学習エリアとなっています。ALSは、プロジェクターを使ってグループワークを行うなど授業でも利用されています。

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、オリエンテーションをオンラインで動画配信したり、データベースのリモートアクセスサービスを提供したりと、来館しなくても図書館サービスを利用できる環境を整えています。

感染症収束の目途がなかなか立ちませんが、提供できるサービスを考えながら、今後の図書館運営を行っていきたいと考えています。



CONTENTS

■ 研究会報告 令和2年度第1回大学図書館研究会	2
■ トピックス	3
■ 編集後記	6

研究会報告

大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修 (群馬県大学図書館協議会・群馬県図書館協会 共催)

○令和2年度第1回

日 時：令和3年3月9日(火) 14時00分～16時00分

場 所：Web会議ツール(Zoom)によるオンライン形式

参加者：30名(大学図書館12名、公立図書館4名、学校図書館4名、一般10名)

講 演：「歴史と伝奇 ふたつのジャンルを書く」 小説家 武内涼氏

【概要】

高崎在住の小説家、武内涼氏を講師にお迎えし、Web会議ツール(Zoom)によるオンライン講演会を行いました。映画監督を目指し制作会社で働いた経験から、現地取材を徹底する姿勢が小説づくりに活かされていることや、デビュー作『忍びの森』誕生のエピソードが語られた後、史実に忠実な「歴史小説」とファンタジー性に富む「伝奇小説」を創作する際の違い、物語にリアルさを持たせる工夫、それぞれのジャンルを書く面白さ、キャラクターのイメージの作り方などが紹介されました。最後に、事前に参加者から寄せられた「特に思い入れのある登場人物は?」「純粋に読書を楽しむために最近読んだ本は?」などの質問にも丁寧に回答いただき、創作活動の裏側を知る貴重な機会となりました。



(配信会場 群馬大学)



(講師 武内涼氏)

【参加者の意見等】

- 作品が生まれるまでのご苦労や、楽しさを伺い、改めて作家の方への尊敬の念が強くなった。図書館に勤務しており、図書館の蔵書1冊1冊に、作家の方、本に携わる方々のそういった思いが込められているのだと思うと、感慨深い。
- 歴史小説と伝奇小説の違いを意識したことがなかったので、説明を聞かせていただくととても勉強になった。
- 先生のお人柄と語り口に引き込まれ、あっという間の2時間だった。
- 武内先生の執筆の仕方、執筆に入るまでの準備など作家の裏側について知ることができて楽しく聞かせていただいた。
- オンラインでの講演会は初めて参加したが、会場までの移動が不要で時間が有効活用できると感じた。また講師への質問など画面で見られたのが大変わかりやすかった。
- どこかへ集まる形よりも参加のハードルは低いように感じた。

など、初めてのオンライン開催でしたが、概ね好意的な意見が寄せられ、大変有意義な研修となりました。

トピックス

高崎商科大学図書館

「ビブリオバトル2020」オンライン開催



本学では2020年9月7日に在学生対象のビブリオバトルを開催しました。読書に親しむ機会を作るとともに、学生がコミュニケーションを深め、プレゼンテーション能力を高めることを目的としています。今年度はコロナ禍の中、初の試みとなるオンライン開催に変更し実施しました。

参加者は8名、予選を2グループで行い決勝進出者を各1名決め、決勝戦は全員でバトルの発表を聞き、チャンプ本を選びます。今回はWeb会議システムZoomを利用し、予選はブレイクアウトルームを使用しました。学生は1人5分で実際の本を画面越しに参加者に提示し、発表します。ディスカッションタイム（3分）では、紹介したいと思った理由や一番共感した場面はどこか、など質問があがり、本を中心にコミュニケーションを深めました。決勝進出者の投票には投票機能を利用しました。

休憩中もグループ内では自然に学生同士で学生生活や就活の情報交換ができ、遠隔授業では難しかった学科や学年を超えた交流の機会を持つことができました。

決勝に進出した学生はそれぞれ自分の経験や、著者の魅力などを交え本を紹介し、聴衆の心をつかみました。オンラインでも人の心を動かすことができ、自信につながったようです。また参加した学生も、本の情報を共有できることに魅力を感じたと伝えてくれました。入賞した本はその後図書館で展示し、学生に利用されています。新しい形の開催は、ビブリオバトルの可能性が広がったと実感しています。

トピックス

群馬パース大学図書館

学生Web選書

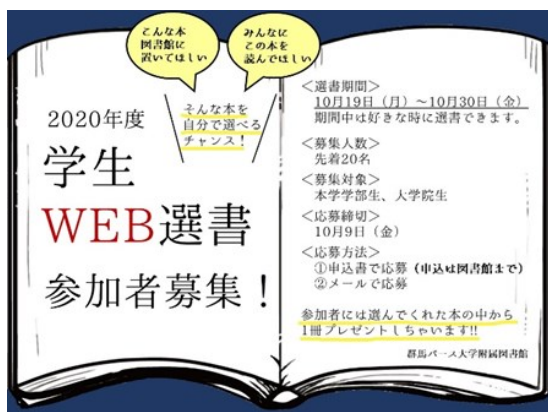
本学では学生に学習や研究以外でももっと図書館と関わってもらいたいと思い、2019年度に学生対象企画として初めて「学生選書ツアー」を開催しました。初めての試みでしたが参加学生もバラエティに富んだ図書を選んでくれ、貸出数アップにつながるなど好評だったため、今年度も開催を予定していましたが、新型コロナウイルスの影響で学生の健康を考慮し、書店での開催は断念しWEB上で選書を行う「学生WEB選書」を10月に開催することになりました。

WEBで好きな時に気軽に選べることや、参加者には選んでくれた図書の中から1冊プレゼントを行うということもあり、学習で忙しい中でも9名の学生が参加してくれました。学習に役立つ図書から小説まで、様々なジャンルの図書62冊を選書してもらい、おすすめ図書のポップの作成など展示の協力もしてもらっています。

選書後のアンケートでは「やはり本屋さんで直接図書を手に取って中身を見て選びたい」という意見と「WEBの方がいつでも選べるし簡単」という意見が半分ずつあったため、次年度はコロナの状況を見ながら

になりますが選書ツアーとWEB選書を両方行いたいと考えています。

今後も図書館として、資格取得へ向け日々頑張っている学生達に息抜きになるような企画を考え、実施していきたいと思います。



トピックス

高崎健康福祉大学図書館

ネットを活用した広報活動について

本学図書館では、学生ポータルサイトとイントラネット掲示板に「図書館メールマガジン」を月1～2回のペースで掲載しております。「図書館メールマガジン」には、図書館で行っている館内展示や知っているとちょっと得するようなお知らせや情報を掲載しています。

2017年6月にもっと図書館の事を知ってもらうために始めた広報活動ですが、コロナ禍でなかなか図書館へ来ることができない学生や教職員へのよい広報の場となったのではないかと思います。

2020年3月中旬～5月下旬までの臨時休館時には、電子ブックや電子ジャーナル、データベースのリモートアクセスについての広報を重点的に行ったところ、例年よりもアクセス数や問い合わせが増加しました。



館内展示「マンガで学ぶ！」



図書館HPコーナー紹介

6月からは対面授業のために学生が登校してくるようになりましたので、館内展示などのお知らせも掲載するようになりました。館内展示のお知らせについては、本学図書館ホームページのお知らせ欄にも、簡単ではありますが展示の様子等を掲載しております。学生課とコラボした『めざせ学生リーダーへの道！』や、『マンガで学ぶ！』などの展示は、いつもより多くの反響がありました。

今後も「図書館メールマガジン」の認知度が上がるように活動を続けたいと思います。

トピックス

群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館

「群馬県古墳発掘の父・尾崎喜左雄博士展Part5」Web展示

12月2日～1月8日まで、群馬大学中央図書館ギャラリーにて「群馬県古墳発掘の父・尾崎喜左雄博士展Part5」を開催しました。尾崎喜左雄博士（本学名誉教授）は、昭和20～40年代にかけて県内300以上の発掘調査を行い、群馬の古墳研究の礎を築いた研究者です。共同教育学部に保管された膨大な出土品や調査記録を公開するため、平成28（2016）年度から毎年、図書館にて展示を行ってきましたが、今年度はコロナ禍で学外の方の入館が制限されていたため、展示会場は学内限定公開となりました。



そこで、少しでも多くの方に尾崎博士のご功績を知っていただく新しい試みとして、尾崎博士や県内古墳についての解説書26点や動画5本、オリジナルトランプなど多様なコンテンツをWeb展示という形で公開しました。これらは、尾崎博士を全く知らなかった本学1年生が授業教材として取り組み、制作したものです。また、尾崎研究室で学ばれた右島和夫氏（県立歴史博物館特別館長）、清水和夫氏（本学教育学部同窓会会長）によるトークイベント動画もYouTubeにて配信しました。

Web展示では、これまで開催日時や地理的に制約のあった方にも、いつでも尾崎博士の功績や資料群を知ってもらえるメリットがあります。一方で、現物を目の当たりにして初めて感じる質感や大きさ、細微の様子などを感じにくいもどかしさもありました。今後は、図書館へ足を運んでもらい、体感する機会も大事にしながら、Webならではの情報提供の可能性も探っていきたいと考えています。

Web展示の内容は、総合情報メディアセンターHPからご覧いただけます。

<https://www.media.gunma-u.ac.jp/announce/2020/clib/2020113000.html>



フル版



YouTubeから動画を公開



力作揃いの解説書



トピックス

育英大学・育英短期大学図書館

新聞で振り返る東日本大震災
新聞で振り返る新型コロナウイルス

本学図書館では、2020年11月2日(月)～2021年1月29日(金)の会期で、2016年度から毎年実施して恒例となっている、東日本大震災発生当時(2011年3月)の新聞を展示する企画展示『新聞で振り返る東日本大震災 一大規模災害から防災を学ぶ』と、臨時企画展として、新型コロナウイルス流行の発端(2020年1月)から初めての緊急事態宣言発令(2020年4月)までの、新型コロナウイルス関連記事が掲載されている新聞を展示して、主な出来事を振り返る『新聞で振り返る新型コロナウイルス(COVID-19)』を実施しました。

分散授業のために、来館する学生が少ないなかでの展示でしたが、Googleフォームを利用したアンケートに、『新聞で振り返る東日本大震災』には「もう10年も前の事なのだということに驚いた。今は危機感の低下が感じられる」、「災害の対策をしておくべきだと思った」、「一生忘れてはいけないこと」等、『新聞で振り返る新型コロナウイルス』には、「WHOの対応に注目していきたい」、「自分がどうやったら罹らないか考えることが出来た」等の感想が寄せられて、熱心に展示を見てくれたことがうかがえました。



新聞で振り返る 東日本大震災



新聞で振り返る 新型コロナウイルス



編集後記

今号のトピックスでは、44号のアンケートへお寄せいただいた情報を元に、コロナ禍で実施された各図書館のイベントをご紹介いただきました。この1年でイベントや会議、研修のオンライン化が一気に進み、自宅でも職場でも気軽に参加できるようになりました。

3月の研究会で講演された武内涼先生は、小説の舞台となる地域へ足を運び、土地の起伏やそこから見える景色、光、草花、匂い、街並み、そこで暮らす人々を実際に見て、想像を膨らませることをとても大切にしていると語られました。オンライン上で得た情報や映像だけですべてを知ったつもりになっていないか、自分の体験や感覚を通じて得られるものは何か、改めてこの1年の生活の変化を見直す契機となりました。とはいえ、武内先生の講演が実現したのもオンライン化のおかげです。その利便性を享受しつつ、オンラインだけで済ませてはいけないこともある、ということを忘れないようにしたいと思います。